

平成31年度 学校自己評価システムシート (県立鳩山高等学校)

目指す学校像	普通科、情報管理科併置の利点を活かした「実学」を通して、生徒一人一人を大切に、地域を支え地域の発展に貢献できるリーダーを育成する
--------	------------------------------------------------------------------

重点目標	1 キャリア教育の浸透と主体的な学習態度の育成を通じた学力向上 2 規範意識の醸成と規律ある生活習慣の確立 3 活力ある学校行事・部活動から、責任感、社会性、主体性、協調性の涵養 4 地域貢献・活性化と生徒の資質を高める地域連携の推進
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	11名

学校自己評価						
年度目標			年度評価 (2月 1日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	【現状】組織として、生徒のキャリアを育み、進路実現に結びつける環境が整備され、基礎学力を育むための授業改善も進んでいる。そのうえで、生徒の主体的に学ぶ態度を一層育む授業改善、実学の具現化も必要である。 【課題】 ・生徒の意欲を高める授業改善をより進めること。 ・生徒の進路実現をより確実なものとする。	授業改善とこれによる基礎学力の定着	①基礎学力をより充実させるため、少人数授業、学習サポーターの活用を始めとする、授業改善にさらに取り組む。 ②職員研修、授業見学等を通じ、教員間の学び合いを深め「わかる授業」を実践する。 ③生徒の「主体的に学ぶ」態度を育む。	①達成度確認テスト及びアンケートの結果が改善したか。 ②授業の満足度等が高まったか。 ③家庭学習時間の確保、授業への意欲的な参加が図れたか。	教員間の学び合いの機会を生かし、授業改善に取り組んだ。 ①アンケートで少人数授業が「わかりやすい」と答えた生徒は57%、達成度確認テストは全学年で概ね70%の正答率である。 ②アンケートで「授業が分かりにくい」と答えた生徒はごく僅かであった。 ③平日に家庭学習をする生徒は前年の35%から41%に若干改善した。	B 生徒の実態を踏まえ、個々の生徒をより伸ばすことが必要である。このため、教員間の学び合いの機会をさらに創出し、授業改善をより進める。生徒の学習機会を創出し、授業以外で学習する態度をどのように育むか、全校でさらに検討する。
		キャリアの育成と進路実現	①1年生から3年生までの体系的な進路指導体制を確立、インターンシップの充実を図り、進路実現に結びつける。 ②全生徒に対し「ビジネス教育」を浸透させ、生徒のキャリアを高める。	①各学年に応じた指導体制が確立され、進路実現が図れたか。 ②ビジネス教育に対する生徒の興味関心が高まったか。	外部機関を生かし生徒のキャリアを育んだ。 ①インターンシップを47事業所と連携し実施、振り返りとしてポータルページを活用した。卒業予定者の進路決定率は概ね100%である。 ②「ビジネス基礎」の授業を分かりやすく感じる生徒は57%である。	A 生徒の進路保障のため、興味関心、さらに適性や能力を伸ばすことが大切である。これに向けて、卒業後に必要な基礎学力や文章力を3年間で身に付けられるように取り組む。
2	【現状】校内は落ち着いた環境である。これは基本的な生活習慣が定着し、また生徒個々の状況に対応する情報共有が進んでいる結果である。引き続き共通理解を深めることが求められる。 【課題】 ・生徒自らTPOを意識した態度を育むこと。 ・生徒の自己肯定感を育む取組みを充実させること。	規範意識の向上と共生社会に向けた啓発	①学校生活全般において、TPOを意識した行動ができるよう、規律ある生活習慣を確立する。 ②時間を守る意識を高め、授業のチャイムTPOチャイムを実現する。 ③一層の校内美化を図る。	①適切な指導体制を通して、生徒の生活習慣に対する意識が高まったか。 ②時間を守る意識を引き続き持たせることができたか。 ③校内美化の意識が高まったか。	規律を大切に指導を行っており、校内は概ね落ち着いた環境である。 ①アンケートで「校則やルールを守れている」と89%の生徒が回答した。 ②アンケートで「遅刻をしない」は89%「チャイム前着席」は90%の生徒が出来た。 ③美化活動により校内整美は一層定着した。	A 規律は概ね保たれている。この中で生徒の自己肯定感をどのように育むか、認め伸ばすための指導について校内で共有を図る。
		生徒の豊かな心を育む取組みの実現	①生徒の人権意識を尊重する心をはぐくむ。 ②教育相談、特別支援教育等の体制をより充実させ、生徒の自己肯定感を育む。	①生徒の他を尊重する意識が高まったか。 ②外部の専門家を活用し、その成果を教育活動にさらに浸透することが出来たか。	校内全体で意識の高揚が図れた。 ①アンケートで他人に迷惑をかけない心がけをしている生徒は87%いる。 ②教育相談体制の組織を改善した。職員研修は内容をより焦点化して2回実施した。	A 新たに始まる教育相談体制を組織的に運用し、生徒を支援する体制を整える。
3	【現状】学校行事は生徒が意欲的に取り組んでいる。部活動の加入状況は伸び悩んでいる。それぞれを活性化するための方策を早急に検討する必要がある。 【課題】 ・部活動に取り組んでいる生徒が充実感を一層得られるようにすること。 ・学校行事を通して学校生活の満足度をより高めること。	学校生活に対する主体的な態度の育成	①生徒の自覚を育成するための授業公開等を実施する。 ②行事等において本校生徒がより主体的に取り組む機会を創出する。	①授業公開の機会が創出され、参加者を募ることが出来たか。 ②生徒の行事等に対する満足度が高まったか。	生徒の意欲を高める行事を実施した。 ①昨年とほぼ同数の参加者を募ることが出来た。 ②文化祭後のアンケートで「積極的に取り組めた」と答えた生徒は89%であり、前年度81%から改善、意欲を育むことが出来た。	A より多くの生徒が主体的に学校行事や部活動に関われるよう、生徒への働きかけなどを一層工夫改善する。
		部活動の活性化と満足度の向上	①さまざまな媒体を活用した部活動状況及び成果の発信を充実させる。 ②本校部活動の活動方針に基づき、部活動計画の立案し、活動を充実させる。	①大会結果の他、活動状況がさまざまな手段で発信できたか。 ②部活動の活動方針が適切に運用でき、生徒、保護者への理解を深められたか。	部活動の活性化を図るべく、さまざまな観点で取り組んだ。 ①HP、広報紙、生徒会新聞等に掲載した。 ②休養日を適切に設けるなど、生徒がより部活動に参加しやすい環境を整えた。	B 部活動の加入率は約60%である。活動の状況をよりHPなどで適時性を生かして発信し、地域や中学生への理解に努める。
4	【現状】「ハトミライ☆プロジェクト」を軸に地域に根差した学校づくりが進み、生徒の満足度も高まった。生徒募集状況も改善、保護者や地域の学校に対する理解も進んでいる。 【課題】 ・より多くの生徒が地域連携に関わり、新たな自信を身に付けること。 ・生徒の教育活動に地域資源をさらに生かすこと。 ・地域と学校双方が活性化する取組みを検討すること。	生徒を育む地域連携の充実	①地域資源を活用した教育活動の充実を図る。 ②鳩山町及び比企郡全体との関りを深化し、地域及び学校の活性化の具体策を引き続き実践する。 ③PTA活動の充実を図る。	①地域の人材を教育活動に活用できたか。 ②各機関との連携により、地域における本校の理解を深めることが出来たか。 ③PTA活動への参加者数が増加したか。	生徒を育む地域連携をより進めた。 ①総合的な学習の時間における地域資源の活用など、今後の実学に結びつく取組みなどを行った。 ②「ハトミライ☆プロジェクト」を軸に地域連携をさらに進めた。 ③各PTA行事に概ね昨年並みの保護者に参加をいただいた。	A 官産学の連携をより緊密にし、地域・保護者の協力を生かす、次期学習指導要領を見据えた教育活動の体制を整える。
		情報発信の工夫改善と志願者の確保	①ホームページ、メール等をさら活用した情報発信を行い、地域、保護者の本校に対する理解を深化する。 ②中学校にむけた広報の充実を図り、生徒募集に結びつける。	①ホームページアクセス数の増加及び更新回数の上昇、また広報紙の内容の充実が図れたか。 ②中学校に対し、より適切に情報を提供することができたか。	地域や保護者に向けた情報発信をさらに改善し、一斉配信メールも活用した。 ①広報紙を5回発行し町内に回覧、HP更新回数・アクセス数も大幅に増加した。 ②全教職員による中学校訪問を年3回実施、さらに出前授業、説明会なども実施した。HPでの説明会申込を新たに開始した。	A 本校生徒の活躍の様子をより多くの地域、保護者、中学生に知ってもらえるよう、より多くの教員が組織的に情報発信に関わるようにする。

学校関係者評価	
実施日 令和2年2月10日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
生徒を伸ばしてくれる高校であることがわかる。地域の高校として安心して生徒を任せられることが出来る。	
地域の保育や幼児教育に携わる人材が不足しており、広い分野の人材育成に期待したい。この分野に関する図書館の充実も図って欲しい。	
就職後の離職率などについて統計をまとめていくこと等は現在の社会情勢から難しいことがわかった。	
携帯電話に関する講習会やアンケートなどを通して、社会全体の課題について考えることは意義がある。また、これらを通じた生徒の変容には興味がある。	
挨拶が出来ている、また、安心・安全な学校づくりが進められている印象がある。	
校内及び生徒の様子は落ち着いた環境である。	
学校行事等の様子から明るく活力のあるイメージがある。	
広報紙や報道記事などを通して、学校の内部の「見える化」が図られており、生徒の様子や活躍がよくわかる。	
部活動の活性化に期待したい。	
地域を支え地域の発展に貢献できるリーダーを育成するという目指す学校像を、生徒会を始めとする諸活動で具現化している。	
外部との交流が上手くできていると思う。これらの活動が充実しており、コミュニケーション力が高まっている。意識も高まっていると感じる。	
ボランティア活動を通して、地域での活動に参加できた。さらに生徒の参加を増やせると良い。	